



わたしの一枚
my photograph

あなたにとって
「わたしの一枚」とは
どんな写真ですか？

神様から頂いた一生の宝物

佐藤 幸治 (静岡県静岡市 佐藤写真館)



昭和46年7月撮影。川口先生に写して頂き、密着で焼いたネガの薄いにはびっくりしたのを覚えています。

頂いた修了証。当時の文協・会長は堀 不佐夫氏(現・堀恵介会長の祖父)でした。



この写真は、昭和46年7月、第8回夏期写真大学講座の修了式で頂いたものです。当時Cコースの受講生は全員、講師だった川口盛成先生に撮影して頂いた肖像写真を記念に修了証書とは別に頂いていました。僕らにとっては、川口先生は写真の神様でしたから、話すのも怖かったほど。そんな先生に撮ってもらったこの写真は、もう一生の宝物、嬉しかった。

写真を勉強したい、もっと上手になりたい、と思い夏期大を受講しました。当時は3年間受講しないと修了できなかったもので、昭和44年の第6回(7月21日~26日)でAコース、そして翌年の第7回(7月20日~25日)でBコース、翌々年の第8回(7月12日~17日)でCコースを受講しました。

夏期大では沢山の仲間ができ、いまでもお付き合いをしていますし、夏期大修了生OBからなる雅優会には毎年参加、コンテストでは腕を磨きましたが、その仲間とはいまでも年に1回集まり親交を温めています。

当時の夏期大は明治神宮外苑の日本青年館の会議室で行われていました。受講生の数は100名以上、記念写真は会館の前でずらりと並んでの撮影、その光景は壮観でした。そして夜は大部屋に7、8人単位で連日話し込み、雑魚寝。Bコースを受講した時は、多くの受講生が腹痛を起こしたり…と、いろいろと事件もありました(笑)。いまとなっては懐かしい思い出です。

そんな夏期大がいまも続いていることに感慨深く、また嬉しい限りです。

■「写真文化」では、あなたの「わたしの一枚」を募集しています。▶詳しくは日本写真文化協会・事務局までご連絡ください。